ビデオアノテーションはふりかえり活動でどう役立つのか

HP　関連論文

—グループ・ディスカッション練習の実践結果の分析—

山口昌也

観察支援システムFishWatchrを用いたディスカッション練習の流れ

1 練習を録画

- A大学夏季集中講義
- 1～3年生32名(10グループ)

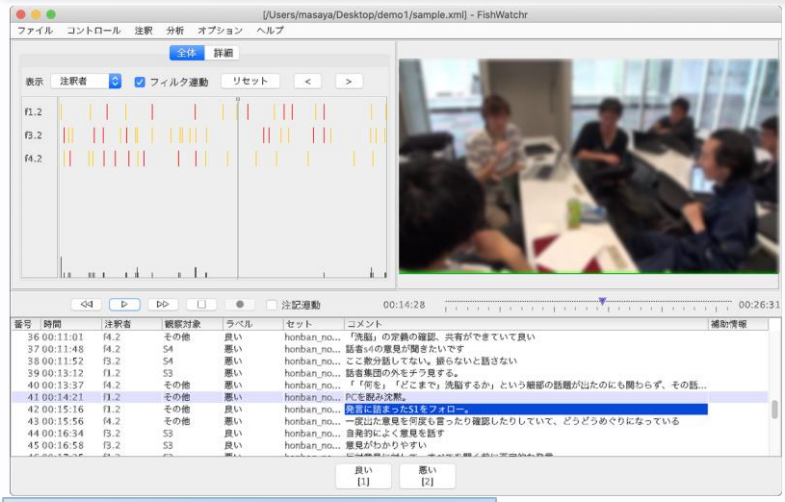
2 自分たちの練習にアノテーション

- 気になったシーンにラベルやコメントづけ

3 グループでふりかえり

- 全員の観察結果を合併
- ビデオを参照しつつ，全員でふりかえり

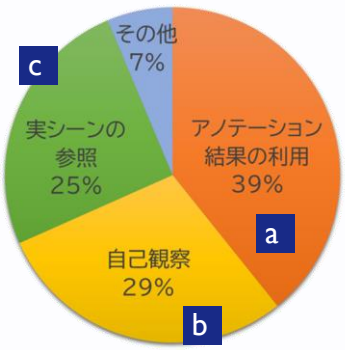
ビデオアノテーションを用いたふりかえり



一つのアノテーションに書き込める情報　＝
評価対象のメンバー名(不特定も可)　＋
評価(「良い」「悪い」「その他」)　＋　コメント

アノテーション方法(YouTube)

● 実践後のアンケート結果(自由記述，79件)「FWを用いたふりかえりの利点」

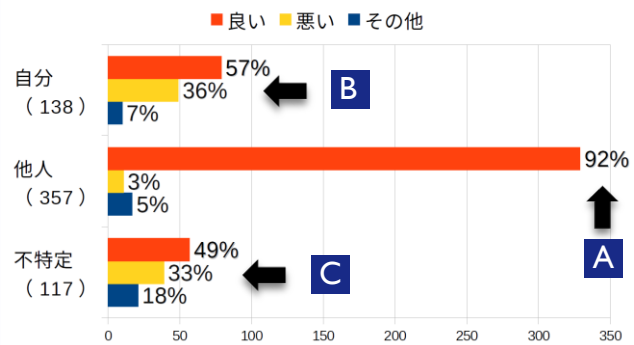


「みんなが良い悪いと思う点が共通しているかどうかが一目でわかる」 a

「客観的な目線で自分たちのディスカッションを見ることができる」 b

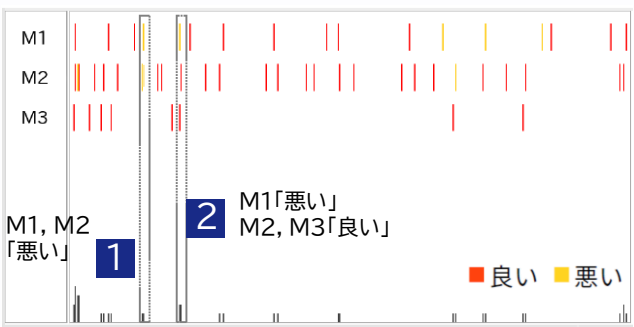
「映像という客観的な証拠があるので，振り返りに説得力が出る」 c の例

● アノテーション対象と評価



A　他人の長所を評価⇒　良い点を指摘してもらえる
B　自分の短所も評価⇒　短所の認識と反省を促す
C　他人の短所は不特定で評価　⇒　悪い点も指摘してもらえる

● 時系列グラフでの分析(3名のグループの例)



1　M1は「主張が揺らいでいる」と自己評価，M2は「観点を定められなかったせいで何度か話が堂々巡りしている」と評価　⇒　他者による詳細な評価

2　M1は自分の説明を「悪い」と評価しているが，M2，M3は「良い」説明だと評価　⇒　多様な観点の評価